

水田たより 8月号

令和3年8月11日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

■成熟期予測（生育基準田調査より、出穂日から成熟期見込みを算出）

品 種	移植日	出穂期（前年比）	成熟期見込み
あきたこまち（長島）	4月11日	7月9日（3日遅い）	8月10日
コシヒカリ（桑名）	4月24日	7月23日（3日遅い）	8月24日
コシヒカリ（大安）	4月25日	7月27日（2日遅い）	8月28日
キヌヒカリ（大安）	5月15日	8月2日（見込み）	9月3日

■収穫までの水管理

※水不足や水利関係に注意して行ってください。

登熟初中期の高温は乳白粒を増加させ、品質を低下させます。登熟期間中は間断灌水を基本とし、新鮮な水の供給を行い、稲の温度低下および根の活力維持に努めましょう。さらに、早期落水は白未熟粒の発生を助長するので落水時期を遅らせましょう。

■適期収穫

早刈りをすると、青米や未熟粒が混入し、品質・収量が低下します。また、刈り遅れると、玄米の色沢が悪く、茶米や胴割粒が増加し、品質が低下します。特に一部の早生品種や大粒品種は胴割粒の発生が多くなるものがあるため注意が必要です。

晩生品種でのカメムシ対策

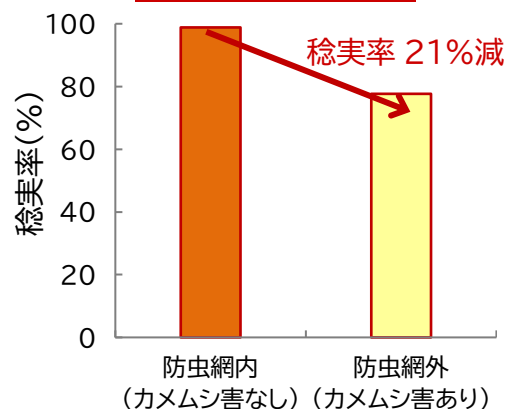
7月12日に病虫害防除所から発表された「病虫害防除技術情報第9号」では、今年も斑点米カメムシが多く発生し、今後被害が多発すると予想されています。カメムシの被害は、斑点米による品質低下だけでなく、不稔による収量減少もあるため、業務用米や飼料用米等の晩生品種においても、防除は必須です。

カメムシの吸汁により傾穂しない稲



2019年10月、伊賀市

カメムシ害により稔実率が2割低下 →大きな収量の減少



データ提供：三重県農業研究所

■カメムシ類に登録のある農薬例

薬剤名	希釈倍数	防除適期	使用時期
スタークル液剤 10	1000倍	1回目→穂揃い期	収穫7日前まで
クラブフロアブル	1000~2000倍	2回目→1回目の10日後	収穫14日前まで

※2回防除の場合は、薬剤を変更すること。

※飼料用米は防除の晩限が定められている場合があるため、関係機関に確認してください。

今年はウンカの被害も予想されるため、カメムシとの同時防除を行いましょう。

大豆の産地交付金（県活用枠）について

■産地交付金（県活用枠）の概要

大豆の生産性向上を支援するために、産地交付金が5,000円/10a（予算都合で単価調整する場合あり）を上限として設定されています。

産地交付金を受けるには、①必須要件、②追加の要件の両方を満たす必要があります。

■①必須要件

重要病害虫（カメムシ類、ハスモンヨトウ、紫斑病等）の本田防除を2回以上行うこととなっています。三重県の大豆のカメムシ被害については、ミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソハリカメムシの3種が主原因となっており、被害を受けると収量や品質に影響を及ぼします。下記を参考に防除を徹底してください。

〈農薬の例〉

対象	農薬名	防除適期	希釈倍数/施用量	施用時期/施用回数
カメムシ類	スタークル液剤10	9月中旬～10月上旬	1000倍 /100～300 L/10a	収穫7日前まで /3回以内
	キラップフロアブル	9月中旬～10月上旬	2000倍 /100～300 L/10a	収穫7日前まで /2回以内
ハスモンヨトウ	プレバソン フロアブル5	8月中旬～9月中旬 (白変葉が生じたら 直ちに防除する)	4000倍 /100～300 L/10a	収穫7日前まで /2回以内
紫斑病	アミスター20 フロアブル	9月上旬～下旬 (莢伸長～子実肥大始期)	2000～3000倍 /100～300 L/10a	収穫7日前まで /2回以内

農薬の使用にあたってはラベルを十分に確認し、安全使用上の注意等に沿って使用してください。

〈カメムシ防除体系の一例〉 9月中旬に1回目、10月上旬に2回目の防除

9月中旬（1回目）

キラップフロアブル



10月初旬（2回目）

スタークル液剤10

※2回防除の場合は薬剤を変更してください。

実際には、各ほ場や病害虫発生予察情報等を確認のうえ防除を実施してください。

■②追加の要件

播種後に実施できる要件の1つに難防除雑草への対策があります。この要件は播種前に排水対策などを実施できなかった圃場でも可能ですのでぜひご検討ください。

なお、産地交付金の詳細を桑名普及センターHPに記載していますので参考にしてください。

「だいず」生育期に登録のある除草剤の例（令和3年7月末時点）

薬剤名	散布方法・時期	雑草への効果	
		効く	劣る
アタックショット乳剤	全面散布 (開花前まで使用可)	◎ヒコ科、木ヅキ類 ○～△アガオ類	△苧科、アゲ科 ×イネ科
大豆バサグラン液剤	全面散布、雑草茎葉散布 (収穫45日前まで)	◎アゲ科、苧科	△アガオ類、ヒコ科 ×イネ科
ポルトフロアブル	全面散布 (収穫30日前まで)	◎イネ科	×広葉

※各メーカーHPを参考に作成（◎：効果大、○：効果あり、△：効果劣る、×：効果なし）

散布後、大豆葉に薬害が発生することがありますが、新たに展開する葉への影響は少なく、薬害は徐々に目立たなくなります。

カメムシ防除の有無による整粒率の違い
(令和元年度桑名普及センター調べ)

